



Title	台湾活動記録（2018年3月11日～20日）
Author(s)	大坪，慶之
Citation	近代東アジア土地調査事業研究ニューズレター. 2019, 9, p. 98-99
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/84919
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

(5) 台湾活動記録 (2018 年 3 月 11 日～20 日)

大坪慶之

3 月 11 日 (日) 【関空発⇒台北着】エバー航空 BR131 便

片山剛 (大阪大学教授)・山本一 (立命館大学講師) が関西国際空港から台北に到着。宿舎は、福華国際文教会館。3 月 8 日 (木) から別科研で台湾に来て調査を始めていた小林茂 (大阪大学名誉教授) と合流する。

3 月 12 日 (月) 国史館 (台北本館・台北市中正区)

片山・小林・山本の三名で、国史館へ行く。片山・山本の今回の調査目的は、JFE21 世紀財団「アジア歴史研究助成 (2016 年度)」による共同研究で浮かび上がってきた新たな課題である日本軍占領期の南京の状況について、登記文書中の記述を調査することである。まずは事前に用意しておいたエクセルのフォーマットに、関連事項を入力していく作業から始める。小林は別科研の用務に関する調査を行う。

この日、稲田清一 (甲南大学教授) が台北に到着する。

3 月 13 日 (火) 国史館 (台北本館)

片山・山本に合流した稲田を加えた三名で、国史館へ行く。

午前中に、小林が帰国。午後、大坪慶之 (三重大学准教授) が台北に到着。夜、台湾師範大学で語学研修中の桶谷弥生さん (立命館大学学部学生) と会食する。

3 月 14 日 (水) 国史館 (台北本館)

片山・稲田・大坪・山本の四名で、台北の国史館へ行く。前日に引き続き、日本占領期に作られた「領租証」や戦後に宅地の返還を求めた「発還土地申請書」、地価税に関する記載に留意しつつ、南京登記文書を閲覧する。調査を進めていく中で、登記区の第 1・2 区は占領期に、日本人がかなり入り込んでいたが、第 4 区は登記文書の上では大きな変化が見

られない傾向があることが分かってくる。

3月15日（木） 国史館（台北本館）

国史館の台北閲覧室に行き、前日の作業を継続する。夕食後にミーティングを行い、これまでの作業状況について情報交換し、画像の購入や今後の作業を検討する。その中で、南京市民はいつごろ避難し、何をきっかけに戻ってきたのか、汪兆銘政権期の登記事業に国民政府時代のスタッフがどれほど関わったのかといった問題が議論になる。

3月16日（金） 国史館（台北本館）

引き続き、南京登記文書の閲覧をする。四名とも、日本で閲覧申請をしていた文書の調査をほぼ完了し、画像購入の申し込みをする。

3月17日（土） 台湾大学図書館（台北市大安区）

台湾大学図書館に行く。片山は、南京の安全区や地名について調査する。その中で、日本軍の南京入城時には、市民の大半が疎開したり安全区に逃げ込んだりしていた可能性が高いことなど、これまでの仮説と関連する文献が出てくる。稲田は地価税、大坪は日本軍による占領直後に市民が南京市自治委員会に提出した家屋返還の請願、山本は日本人が占拠した地区に関する史料を閲覧する。

3月18日（日） 台湾大学図書館・国家図書館（台北市中正区）

午前中は、片山・稲田・大坪の三名が台湾大学図書館へ行き、前日の作業を継続する。山本は、国家図書館にて、関連する資料の収集に務める。午後は、自由行動とする。

3月19日（月） 国史館（台北本館）

四人で国史館へ行き、先週に出てきた問題について、各自が調査を行う。そこで検索した多くの史料は、時間の関係でリストアップだけを行い、閲覧は夏の調査に期することになる。

3月20日（火） 【台北発⇒関空着】エバー航空 BR130 便

片山・稲田・大坪・山本の四名が、調査を終え帰国する。
